

マルチプロトコル EDI サーバー 「EDI-Master B2B Gateway」の新バージョンを販売開始 ～流通業界・医薬品業界で利用が広がる AS2 手順に対応～

キヤノンマーケティングジャパングループのキヤノン IT ソリューションズ株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：金澤 明、以下キヤノン ITS）は、AS2 手順※に対応したマルチプロトコル EDI サーバー「EDI-Master B2B Gateway」の新バージョンを、2020 年 2 月 19 日より販売開始します。

キヤノン ITS が提供する「EDI-Master シリーズ」は、小規模クライアント用途から大規模のサーバー用途まで対応可能な EDI ソフトウェア製品群で、豊富な接続実績や使いやすいインターフェースなどで高い評価を受けています。「EDI-Master B2B Gateway」は、企業間 EDI で多く利用されている複数の EDI プロトコルを 1 システムに統合し、取引先の拡大や既存 EDI システムの拡張に柔軟に対応できる EDI サーバー製品です。

2024 年の INS ネットディジタル通信モード提供終了にともない、電話回線を使った従来型 EDI を利用している企業は、インターネット EDI への移行を余儀なくされます。インターネット EDI 対応に向け、各業界では標準プロトコルの規定・検討作業が進んでおり、流通業界・医薬品業界においては、インターネット EDI 対応プロトコルとして、AS2 手順も選択肢の一つとなっています。移行過渡期では、従来型のレガシー手順とインターネット手順のいずれの対応も必要になるため、両手順に対応した統合 EDI システムの導入が、システム運用負荷軽減の観点で重要となります。

新バージョンとなる「EDI-Master B2B Gateway Ver1.4」では、AS2 手順によるインターネット EDI 通信に対応しました。これにより、流通・医薬品業界向け EDI 標準対応の製品をフルラインアップで提供します。各 EDI プロトコルや回線数などの機能をオプション化しているため、スモールスタートが可能です。また、シンプルで使いやすいユーザインターフェースや、豊富な接続実績や他社ベンダーとの接続試験で培われた高い接続性があるため、スモールシステムからミッションクリティカルな大規模システムまで対応できます。インターネット EDI への対応を、システム投資や運用負荷を軽減しながら実現することができます。

今後、キヤノン ITS は「EDI-Master シリーズ」を中核とする EDI ソリューション事業で、2025 年までに年間売上高 25 億円を目指します。製造業、金融業、小売・流通業、医薬品業、サービス業などさまざまな業界、業務における「EDI-Master シリーズ」の導入ノウハウをもとに、パッケージ販売のみならず、システム構築から導入・運用支援にいたるまで EDI システム全般をサポートし、目前に迫るインターネット EDI への移行を強力に支援してまいります。

※ AS2 手順 EDIINT (Electronic Data Interchange - Internet Integration) の略

インターネット技術の標準化推進団体である IETF によって策定されている国際標準規格で、一取引あたりのデータ通信量が多いことが特長

<価格>

製品名	標準価格（税別）	発売日
EDI-Master B2B Gateway Ver1.4	Windows 版 4 回線：500,000 円～ Linux 版 4 回線：1,500,000 円～	2020 年 2 月 19 日

- 報道関係者のお問い合わせ先：企画本部 事業推進部 コミュニケーション推進課 03-6701-3603
- 一般の方のお問い合わせ先：EDI ソリューション営業本部 東日本営業部 03-6701-3457
- EDI-Master ホームページ：<https://www.canon-its.co.jp/solution/edi/>
- キヤノンニュースリリースホームページ：canon.jp/newsrelease/

<「EDI-Master B2B Gateway Ver.1.4」の特長>

●マルチプロトコルに対応した EDI サーバー

- ・ インターネット EDI 主要プロトコルである、JX 手順、ebMSv2 手順、AS2 手順に対応
- ・ レガシーEDI プロトコル（JCA 手順、全銀手順、全銀 TCP/IP 手順）に対応（Linux 版は、全銀 TCP/IP 手順のみ対応）
- ・ FTP、SFTP、メール EDI（POP3/SMTP）に対応
- ・ 全銀 EDI システム（ZEDI）に対応
- ・ 発信側・着信側いずれのプロトコルにも対応し、最大 32 回線の同時接続が可能

●堅牢なシステム構成

- ・ シングル構成の他、複数台の通信サーバーから構成する分散型システムにも対応
- ・ クラスタ化や分散システムにより、高い冗長性を確保

●運用管理や連携機能

- ・ 全プロトコルの統合管理が可能
- ・ ライセンスの追加登録により、プロトコル追加・同時接続数などの順次拡張が可能
- ・ フォルダ連携機能や FTP、SFTP 通信機能により、社内のデータ連携にも活用可能

●流通 BMS 認定製品

- ・ 「流通 BMS ロゴマーク」使用許諾製品

